

最近、ピーター・グレイという人が書いた『遊びが学びに欠かせないわけ』という本を読みました。本の内容も面白かったのですが、後半に書かれていた部分がとても印象に残りましたのでご紹介したいと思います。

あなたが子どもの未来を左右するという考えを捨てる

もし私たちが、自由と個人の責任を大事にするなら、私たちは「子どもが自分の人生を切り開く権利」を尊重しなければなりません。私たちの願いは彼らのではありませんし、またその逆もしかりです。自らの進路を決めるのは赤ちゃんのときからすでに始まります。責任を学ぶためには、子どもは毎時、毎日、毎年、自分で判断することを学ぶ必要があります。そして、それを学ぶのは練習をするしかありません。子どもを愛し、大切に思っている親は子どもの未来を気にかけています。従って、子どもをコントロールしないようにするには困難が伴います。しかしながら、コントロールしようとするのが目標を無にしてしまうのです。私たちが子どもの運命を決めてしまおうとするとき、子どもから自分の人生のオーナーシップ(自分のものという意識)を奪ってしまうのです。毎日、毎週の迷路の中で、私たちが子どもを操縦しようすると、子どもが自分で操縦するのを練習したり、自分の失敗から学んだりするのを阻んでしまいます。子どもが求めていなかったり必要としていなかったりするのにアドバイスを提供してしまうと、本当に欲しかったり必要なときにアドバイスを求めるチャンスを減らしてしまいます。

「あなたの子どもは、あなたではない」ということを、信頼にあふれた親としてよく覚えておくことは重要です。「複製」はものでは可能ですが、人間では不可能です。もう1人のあなたはつくってくれません。あなたが無作為の半分の遺伝子を提供し、あなたの配偶者が残り半分を提供します。それらが合わさってつくり出されるのは、遺伝的に完全に新しい人間です。その人は、あなたと共通する特性をいくつかは持っているかもしれませんが、ほとんどはあなたではありません。あなたの子どもはあなたではないのです。あなたの子どもはまったく別の人格をもっており、ほかのすべての子どもと同じで、成長し、学び、人生を決めるためにこの世に生まれたのです。あなたは、あなたの子どもが自分をつくり出すために使う環境基質のごく一部に過ぎないのです、あなたの子どもが必要なものを提供することで、よい気質であろうとしてください。しかし、子どもの成長に対して指示する責任をあなたは持っていると思わないでください。

あなたの子どもが成功しようが失敗しようが、それは子ども次第であって、あなたのせいではありません。そして成功と失敗の指標はあなたではなく、子どものものでなければなりません。世の中には不幸な弁護士、医者、企業の経営者がたくさんいます。一方で、幸せで、充実していて、親切な事務員や守衛がたくさんいます。職業上の成功は人生の成功とイコールではありません。どんな職業でも幸せにも、不幸にもなります。しかし、もしあなたの人生が自分自身のものであるとは思えないなら、幸せになる事はあり得ません。以上は自明の理です。陳腐に聞こえるかもしれませんが、子育てのことになると、あまりにも多くの人は忘れているのです。

(後略)

ピーター・グレイ 著『遊びが学びに欠かせないわけ』築地書館 (P.289~290)

「あなたはあなたの子どもではありません」という言葉にドキッとしました。親だけでなく、私たち大人は、特に教育(保育も含め)に携わるような人たちは、「子どものために良かれ」と思って、子ども達に様々なアドバイスをしたり、いろいろ教えようとします。子どもを良い方向へ導いてあげなければと思っているからです。しかし、自分の経験、自分にとって良かったことが、必ずしも、子どもにとっても良いこととは限りません。自分の経験談を話して聞かせることや、こんな方法もあるよと提示するのは良いとしても、こうなさいと押し付けてはいけないということです。しつけ、教育、指導というのは、時として、大人の勝手な価値観の押し付けであるという事もわかっておかなければと思います。

子どもは自ら学ぶ力を持っています。そして、常に成長したいと願っている存在なのです。子どもが進む道は子どもが自ら選んで進んでいく必要があります。子どもの人生の主人公は子ども自身なのです。